

イノベーション

に向けてチームで響きあう研究開発

BUSINESS DESIGN SERIES



— 将来に向けた新たな価値創造を目指して —

講演者

牧村 実氏 (川崎重工業株式会社 常務取締役 技術開発本部長)

昭和 50 年、京都大学大学院工学研究科修士課程を修了し、川崎重工業（株）入社。
モーターサイクル部門を経て、本社技術開発本部で数々の研究開発に携わり、平成 11 年、技術研究所 研究企画部長、平成 18 年、技術開発本部 技術企画部長、平成 20 年、執行役員 技術開発本部副本部長 兼 技術研究所長、平成 23 年、常務執行役員 技術開発本部長を歴任。平成 25 年から常務取締役。工学博士。



川崎重工グループには、「船舶海洋」「車両」「航空宇宙」「ガスタービン・機械」「プラント・環境」「モーターサイクル&エンジン」「精密機械」の 7 つの独立したカンパニーがあり、それぞれが独自の歴史とカルチャーとともに多彩な製品と幅広い技術を保有し、異なった市場環境の中で自立自存のビジネスを展開している。

このような中で該社グループでは、新製品や新技術の開発において、開発の初期段階からカンパニー内の設計や生産の担当者と技術開発本部の専門技術者（スペシャリスト）がチームを組んで取り組んでおり、これをマトリックス運営と呼んでいる。例えば海外向けの高速鉄道車両なら、速度や軽量化の顧客要求に対し、安全性や環境への配慮、快適な移動空間の提供、リーズナブルな価格なども必要で、二律背反どころか五律背反くらいの難しい課題が存在する。これをどう乗り越えるか、各分野のスペシャリストを含むチームで議論しながら開発を進めることにより、開発当初は絶対無理だと思えたものが、ある時突然美しい全体最適の形となってまとまりを成すことになる。これを可能にするのは、チーム全員が共通の将来ビジョンを持ち、本質的な課題を共有し、それぞれの立場で真剣に解決に向け努力しているからである。そして、開発に携わり成功体験を重ねた人財がリーダーとなり、更に新たなチームで次のゴールをめざすことになる。

また当該本部の技術者は、鉄道車両、航空機、ガスタービンと、その時々で違う案件に携わり、これにより、開発した技術を全社へ水平展開することも可能にしている。技術開発本部では、このような役割を担うことにより、イノベーションを目指し、グループ全体の「新製品・新事業」の開発を効率的に推進し、グループ全体の求心力を高めることで、さらなる企業価値の向上を目指している。

講演では、製品開発と技術の横展開、技術戦略と将来へ向けた取組み（水素プロジェクトなど）、技術によるグループ総合力の強化などについて、具体例を挙げながら、トップ自らに生の声で語っていただくと共に、その鍵となる「人財」像についても議論を進めて参ります。エネルギー、インフラ、交通など、国の骨格を担う重工業の技術開発マネジメントに直に触れることによって、新たな視点から次世代のビジネスデザインにつなげていきましょう。

日時 2015 年 3 月 25 日 (水) 17 時 30 分～ (19 時頃から懇話会・有料)

場 所 京都大学デザインイノベーション拠点 (K R P 9 号館 506)

<http://www.design.kyoto-u.ac.jp/access/>

対 象 デザインイノベーションコンソーシアム会員、京都大学教員・学生、一部招待者

定 員 40 名程度

参加費 無料 (懇話会 1000 円)

主 催 京都大学デザイン学大学院連携プログラム / デザインイノベーションコンソーシアム

申 込 <https://pro.form-mailer.jp/fms/51c3d28171619> (事前申し込み要)

締 切 2015 年 3 月 18 日 (水)

運 営 貫井 孝 (京都大学デザイン学ユニット特任教授)

問合せ デザインイノベーションコンソーシアム 事務局

京都リサーチパーク (株) 山口

mail : info@designinnovation.jp

電話 : 075-315-8522